

やまと文化の森だより 企画展のご案内

併設好評開催中!! (最終日は 15:00 までの展示です)

3月の企画展・イベント

○ 3/1 ▶ 3/23 ギャラリークワトロ

4名の作家の作品の合同展示です

- ・東尚史作品展「一期一会」
- ・松本小百合作品展
- ・Ray.M 作品展「夢のきざはし」
- ・國武琴音作品展

4月の企画展・イベント

○ 4/6 ▶ 4/27

細川流盆石展 ～もののふの美と心～

盆石とは、黒漆塗りの盆の上に自然石と白砂で、和歌や漢詩に読まれた自然の風景を表現する縮景芸術です。

○愛石展

町内在住の愛好家の収集した名石の数々を展示します。

○ 3/15・3/16・4/5・4/6

ハンドメイド&ワークショップ・プティ・マルシェ



みて、ふれて、感じる、 盆石体験講座

日程：4月6日・4月12日
 定員 10名 参加費 2,000円

※両日ともご参加いただける方のみお申し込みください。

河原で石を採取し、山都町に多数存在する「瀧」をテーマに盆石を飾り付けます。

詳細はお問い合わせください。

問合 山都町下市 16 番地 ☎ 72-9400 開館時間 9:00～17:00 入館無料
 休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝日又は振替休日の場合は次の平日)、年末年始等

山の都地域しごとセンター通信vol.83

移住者交流会を行いました (こんにやく作り)



2月15日、山都ふらっとにて移住者交流会を行いました。今回は、子ども地域食堂あるもんで運営されている藤本千代美さんたち4名を講師としてお呼びし、こんにやく作りをしました。山都町の野菜をたくさん使った豚汁と合鴨米のおにぎりも一緒に作っていただきました。今回の参加者のほとんどは交流会へ来るのが初めての、まだ山都町に移住して日が浅い方々でした。こんにやくを作りながら山都町での生活の不安やこれからしてみたいこと等様々なお話をすることができ、とても良い時間を過ごすことができました。参加された皆様ありがとうございました！しごとセンターのInstagramでも、交流会の様子など投稿していますので是非ご覧ください。

問合 空き家や移住・定住に関するお問い合わせは、お気軽にどうぞ。

山の都地域しごとセンター ☎ 72-9111 e-mail:yamato.shigotocenter@machi-y.jp

わたしたちの人権

240

誰もが人間として生きていくうえで
 侵すことのできない当然の権利
 これが『人権』です

人権作文の紹介(令和六年度)

今月は、蘇陽中学校一年山領仁子さんと矢部小学校四年原田光結さんの作文をご紹介します。

人権学習を通して考えたこと

蘇陽中学校 一年 山領 仁子
 私は、2学期の人権学習で水俣病について学びました。学習を通して一番感じたことは、「人に話したり、伝えたりすることの大切さです。」水俣の方々、家族が水俣病になって、それだけでも辛いのに、今まで仲の良かった周りの人から急に差別をされるようになって、本当に辛かったらうなと思いました。もし、私とその立場だったら、きつと誰にも相談できずに心を閉ざしてしまい、学校や外に行けなくなってしまうかと思うます。私たちが話を聞いた語り部さんは、そうならず自分たちが経験した辛いことに蓋をせず、行動を起こされていて、とても勇気があってすごいと思いました。

た。自分だったら思い出したくないことなのに、「差別で悲しい思いをさせたくない」、「水俣のことをもっとたくさんの人に知ってほしい」という思いで、みんなに伝え、真剣に話をしてくださった語り部さんは本当に心の強い人なんだなあと思いました。

今回の学習を通して私が考えたことは、「人に話すことは大事だ。」ということでした。辛いことや悩んでいることを誰かに話すと、みんなが明るくなっていけると思います。話した人は、誰かに聞いてもらうことで心が少し軽くなります。相手は、その人のことを知ることができず、相手を「知る」ことで、「この人はこうだから、今はそっとしておこう。」など、その人のことを「理解」できるようになり、一人一人の悩みや悩みがだんだんなくなっていくと思います。だから、私も辛いことや悩みがある時には、まず友達や家族など身近な人たちに話してみようと思いました。

私はこれまで「偏見や決めつけ」を持って人に接してしまったり経験があります。それは、体や身長などその人にはどうにもできないことで、悪口を言ってしまったことです。言った時は、相手は笑っていましたが、だからそんなに気にしていません。思っていました。でも、後からその人が私に言ってくれました。「あの時、顔では笑っていたけど、本当は悩んだし傷ついてたんだよ。」それを聞いて始めて、自分が無意識で人を傷つけてしまっていたことに気づき、とても後悔しました。それから、偏見や決めつけをもとにした発言や行動がないように気をつけています。人の本当の気持ちは、本人にしか分かりません。いつも「相手の気持ちはどうかかな?」と考えて、言葉や行動を心がけていきたいです。そして、誰かが困っていたら、そっと寄り添って話を聞ける、誰かの心を楽にすることができる、思いやりのある温かい人になっていきたいです。

人けん学習で学んだこと

矢部小学校 四年 原田 光結
 「なんで大切なお宮さんをこわしたんだろう。」
 これがわたしが二学期の人けん学習が始まって、一番最初に思ったことでした。四年生は二学期「石神さんの話」というお話を勉強しました。

石神さんという神様がまつってあったお宮があったけど、村の人がそれをこわして集会所をたてたことを知りました。
 実さいに集会所を見に行くと、人けんセンターの方にお話を聞きました。その中で、村の人は差別をぜつたいになくしたいという思いから集会所を作ったことを学びました。私は村の人の勇気がすごいと思いました。それは、何よりも大切にしていた石神さんのお宮をこわしてでも集会所をつくった勇氣です。それと、差別に負けずに立ち向かった勇氣です。本当にすごいと思いました。
 わたしは、これまで差別をつなぐ立場だったと思います。友達と友達がケンカしていた時、一人の子が三人の子にずっといやなことを言われていました。一人の子はずっと泣いていたけれど、わたしは何もできませんでした。そのことを今でもよくやしく思っています。
 人けん学習を通して、おかしなことはきちんと声をあげて立ち向かうこと、おかしなことには協力して立ち向かうことを学びました。だれにでも、どこでも声をあげられる人になりたいと思いました。

自分の人権を守り
 他人の人権を守る
 責任ある行動を



©2010 熊本県くまモン